

## 平成26年度協働事業報告会（25年度事業実施分） 質疑応答

### 2 「認知症相談事業」（市提案協働事業）（かまくら認知症ネットワーク、市民健康課）

Q 鎌倉市民は相談に行きにくいのではないかと。声なきニーズが多いという印象を受ける。市民のためのサービスという意味で幅広い可能性を感じる。感想などあれば教えてもらいたい。

A （団体） ニーズは多様であり、難しい。一般に要介護高齢者の半数以上が認知症と言われている。一人暮らしで自分では訴えられずに生活している高齢者もいる。病気の特徴として、本人も家族も引きこもってしまう傾向がある。閉じこもっている人が外へ出て、相談できる場所が必要であると思う。地域ごとに相談場所が必要だが、それを市が行うことは難しい。地域のボランティアなどが連携していくことが必要だと思う。

Q 毎年周知活動を行っていくパターンだと思うが、3年目に課題としてあがったのは何故か。

A （団体） 周知に関しては毎年課題としてあげていた。ケーブルテレビの活用に関しても放映してもらったことがなかった。周知は主にチラシであった。

A （担当課） ケーブルテレビの放映は出来なかったが、広報紙に掲載すれば申し込みもあったし、市民健康課の窓口から案内したこともある。ただ、後半、もう少し上手く媒体を使えば良かった。課題である。